



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために
RI会長 シェカール・メータ

2021-2022年度



Rotary District 2640 Japan

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

海南東ロータリークラブ

会長 魚谷 幸司 幹事 宇恵 久視 SAA 楠部 均

第 2081 回例会

2021年12月20日(月)

海南商工会議所 4F 19:00～

クリスマス例会・IDM報告

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. 出席報告

会員総数 41名 出席者数 23名
出席義務規定適用免除会員 1名
出席率 58.97% 前回修正出席率 61.54%

4. 会長スピーチ

会長 魚谷 幸司 君

皆様こんばんは。本日は今年最後の例会となります。夜間に変更し、クリスマス例会とさせていただきます。また IDM「クラブの戦略計画(中長期計画、ビジョン、目標)」「次年度の活動計画」をテーマとした発表も予定しております。発表者の方々は少しアルコールを入れてもらい、口を滑らかにして話を進めて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



来年は1月6日に新春家族例会を行います。このようなご時世でもあり、今回はゲストを呼ばず、会員様、会員のご家族様だけで行うこととなりました。海南イーストバンドの演奏、ビンゴゲームが中心となりますが、大いに楽しんでいただけたと思いますので、多くの方の出席をお願いしたいと思います。

報告事項としましてはフィリピンマンダウエ・イーストクラブから依頼のあった「手洗いステーションの建設」につきまして、当クラブより資金提供をさせて頂きました。

12月「疾病予防と治療月間」

まだ先の話にはなりますが、2月20日(日)に海南西クラブと合同の清掃活動を行いますので、日程調整の程宜しくお願い致します。

先日、大阪でビル放火事件が起きました。我々精神科に携わる者としては他人ごとではありません。患者さんの希望通りに診察を進められないこともあり、恨みを買うことや被害妄想の対象に入ることもあります。予防する手段も具体的にはないというのが実情です。亡くなられた先生、スタッフの皆様、患者様のご冥福をお祈りいたします。

5. 幹事報告

幹事 宇恵 久視 君

○例会臨時変更のお知らせ

有田南 RC 1月11日(火) → 1月11日(火)
18:30～ シーサイド松宮
(新年夜間例会)

田辺東 RC 1月12日(水) → 1月12日(水)
18:30～ ホテル シーモア
(新年家族会)

○休会のお知らせ

有田南 C 1月4日(火)

○ガバナー及事務所 年末・年始休暇のお知らせ
12月27日(月)～1月4日(火)

○例会会場移転について新住所等のお知らせ

和歌山北 RC 新例会場住所
〒640-8156 和歌山市七町 26-1
ダイワロイネットホテル和歌山 4F

6. IDM報告

○第1組 発表者：奥 喜全 君

①クラブの戦略計画(中長期・ビジョン・目的)

- ・会員増強(特に40代など若い世代の会員増強)
- ・ロータリー財団の活動について、若い世代の会員が引き継ぎ、経験を積んでいく。

②次年度の活動提案

- ・会員増強を重点に行う。
- ・たんぼぼの会に代わる新たな奉仕プロジェクトの立ち上げ。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深められるか
- ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

○第2組 発表者:宇恵 久視 君

①クラブの戦略計画(中長期計画 ビジョン・目標)

- ・R I のビジョンや戦略および行動計画はもちろん大事だが、当クラブとしてこの海南の地でどう活動していくかという視点が大事
- ・ロータリーの認知度を上げるための外向きの活動が必要。例えば、海南駅に設置している文庫を他の駅にも設置できないか。ゴミスポ(ゴミ拾いをスポーツ感覚で地域参加型による実施)
- ・文化振興、教育面や地域貢献に繋がるような活動
- ・四つのテスト「真実かどうか、みんなに公平か好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか」を再認識した職業奉仕の実施が重要自身の職業の特性を活かした奉仕、自身の技術、ロータリーを通じて提供する活動(例えば医療相談会等々)
- ・社会奉仕として現在実施している活動があるが、それを継続していくことももちろん大切だが、2～3年続けたら海南市や社会福祉協議会等に委託し、また新しい活動を立ち上げて実施していくことが当クラブの価値向上に繋がる

○第3組 発表者:田中 淳 君

①クラブの戦略計画(中長期・ビジョン・目的)

- ・出席率が悪いので、夜間例会の回数を増やす。
- ・夜間に食事をしながら各委員会会議を開催し、更なる活発な委員会活動と親睦を深める。
- ・長期欠席者には、親しい人から出席を促す。
- ・ゴルフや野球などの同好会に所属していない会員さんには、何か新しい同好会を立ち上げ退会防止、出席率向上に努める。(例えばグルメ同好会など)

②次年度の活動提案

- ・地域密着型の奉仕活動をする。例えば、「きみのり」過疎化で交通手段のない地域の高齢者の送迎の支援。
- ・海南市役所 野上支所前『子供を地域で守ろう』の看板の修繕。

○第4組 発表者:赤松 昭二 君

①次年度の活動提案

- ・食品ロスをなくすために、その食材をこども食堂等に提供する活動
- ・鳥獣被害にあっている休耕地が多くある中、その土地の有効活用に繋がる活動
- ・海南青年会議所等の若者の活動団体とのコラボ
- ・米山奨学生を講師とした外国語講座の開催
- ・今一度、真剣にロータリーの事を学んでいきたい

②クラブの戦略計画(中長期計画 ビジョン・目標)

- ・奉仕 たんぽぽの会とのカヌー体験など毎年同じ活動じゃなく変化をもたらすようにすべきではないか
- ・親睦 とにかく仲良く活動することが、増強や維持につながる
- ・リーダーシップ 各種委員長など活動のプロセ

スにおいてリーダーの育成を行っている

*今の戦略計画にはかかって行ったらいい。

新たな事業は難しい。

②次年度の活動提案

強制的な無理な会員増強は出席率低下に繋がる。

*ロータリーは会長をやるべき。

*各種活動をするために一定の会員数が必要。

○第5組 発表者:中村 俊之 君

① クラブの戦略計画

- ・当クラブはバランスよくやっている。
- ・奉仕活動の数を増やし、メンバーも積極的に参加する。
- ・人員を減らさない(会員増強)
- ・社会福祉協議会はいま、他団体との協力を増やすようにしているとのことなので、何か一緒にできることをやっていっては。
- ・子供対象にキャンプやハイキングなど体験型のイベントをやってみては。ただし、その対象者や募集の仕方はよく考えてやらないといけない。
- ・フィリピンへの奉仕活動もコロナ禍で一時途絶えていたが復活しているので、せっかく今まで築き上げた関係なので今後も継続していく。

②次年度の活動提案

- ・コロナの状況次第では?
- ・昔やっていたように公開例会などしてみたら(3クラブ共同でも)
- ・防災関係の事業、啓発活動。
- ・従来の事業の継続
- ・その時の会長のやりたいことをやってもらえば!

○第6組 発表者:阪口 洋一 君

①会員の増強

RI 会長の今年度の目標の1つに大幅な会員増強があります。また、2640 地区豊岡ガバナーの地区目標には、会員を1800名に戻そうとっております。2640 地区の2021年8月末の会員数は1,649名です。地区の目標を達成するためには、各クラブ平均2名以上の純増が必要です。

当クラブにおいても会員増強をクラブの戦略計画に入れることを提案します。2021～2022年度から2025～2026年度までの5年間で、毎年純増2名とし最終的に50名の会員数を目標とします。この目標を達成するためには、会員増強プロジェクトを作りクラブ全体で目標に挑戦する必要があると思います。また、各会員は入会候補者に対してロータリーに関する説明するために知識を身に付ける必要があります。例えば、ロータリークラブとは何をやる会ですか?入会すると、どのようなメリットがありますか?ロータリークラブとライオンズクラブはどう違うのですか?奉仕活動って実際にどんなことをやっているのですか?

②出席率の向上

当クラブの現在の平均修正出席率は大体 65パー

セントくらいです。2640 地区 66 クラブの中で 60 パーセントの出席率のクラブは 5 クラブくらいです。ほとんどのクラブの出席率は 70 パーセント後半から 80 パーセント、90 パーセントです。当クラブの出席率は 2640 地区の 66 クラブの最後から 2～3 番目というところでは、出席率 65 パーセントは、41 名（出席適応免除会員 1 人）の会員数の 26 名の出席です。現在より 2 名多い 28 名の会員が出席してくれれば 70 パーセントになります。現在より 6 名多い 32 名の会員が出席してくれれば 80 パーセントになります。

仕事の都合でどうしても出席できない人に無理に出席をお願いするのではなく、出席できるけど何となく面倒くさいなと言う会員の方に出席してもらうような対策を講じる必要があると思います。今後 1 年程度で 70 パーセントの出席率になるように、また数年後には 80 パーセント台になるようにしたいと提案いたします。

③地域社会への奉仕の多様化

ロータリークラブの奉仕活動で非常に重要なものが地域社会に対する奉仕活動です。従来行ってきた奉仕活動は時の経過とともにその需要が変化していきます。例えば海南タンポポの会との交流も段々先細りの状態にあると思います。単年度計画と並行して数年先の奉仕活動を想定して新しい需要の掘り起こしが必要と考えます。

④青少年奉仕の再構築

以前には当クラブに「ローターアクトクラブ」がありました。現在は存在していません。数年先に高校生を対象とした「インターアクトクラブ」を創設することを提案します。

○まとめ 研修・情報規定委員長 寺下 卓 君

本年度、第 2 回目の IDM を開催していただきました。出席率も 80% を上回り、コロナ禍の中ではありますが、沢山、ご参加いただきました。クラブの戦略計画は、中長期計画、ビジョン・目標を立てることで、今回の IDM 報告を基に今年度中に委員会を開催し、まとめたいと考えています。皆さんのご協力をお願いします。

7. 閉会点鐘

【次回例会】

2022 年 1 月 6 日（木）19:00～

マリーナシティホテル

新春夫婦例会



ニコニコ・BOX

楠部 均 君	ジャズマラソン中止で、高校の同級生と同じコースを走りました。次の日、ゴルフに行きましたが、バテバテでした。
寺下 卓 君	先週、白浜に行って来ました。その間に誰かがヤギに米を与え、2 匹亡くなりました。いろんな方法を試し、最後に水で薄めたパンシロンで残りのヤギは元気になりました。
花田 宗弘 君	アウトドアクラブ、復活します。
山名 正一 君	谷脇さんの代わりに出席率発表します。
IDM 2 組	残金

Rotary NEWS

知られざるロータリーの影響

ロータリアンが創設にかかわった 人道支援団体

クリスマスシーズンや正月を控えた年末には、日本でも助けあいの運動や募金が多く行われます。宗教的な理由であれ、倫理的な理由であれ、「他者を助ける」という行為はどの社会でも重んじられています。

「社会に恩返しする」という考え方は、ロータリー精神の中核でもあります。多くのロータリアンにとって、それはロータリークラブでの奉仕活動や寄付にとどまるものではありません。歴史的にも現在においても、人びとを支援する多くの取り組みでロータリアンが重要な役割を担っています。医療ミッション、災害救援、気候変動との闘い、さらには国連創設への関与にいたるまで、その貢献は多岐にわたります。この記事では、さまざまな分野におけるロータリーのプロジェクトやロータリー会員の活動から生まれた世界各地の団体をご紹介します。これらの団体は、世界的・地域的に名が知られていますが、そのルーツがロータリーにあることを知る人は多くありません。

英国：ShelterBox（シェルターボックス）

主な活動分野：災害救援

昨年に創立 20 周年を迎えたシェルターボックスは、Helston-Lizard ロータリークラブ（英国）のプロジェクトとして始まりました。当初の目標は、被災者に必要物資を届け、避難や生活の立て直しを支

援することでした。国際的に知られる災害救援団体となった現在までに、世界で 170 万人を支援し、緊急シェルターと生活必需品だけでなく、長期の復興プロセスにおいて家族を支えるために必要とされる研修も提供しています。

初期のボックスには 10 人分のテントと寝袋、折りたたみ式シャベル、浄水タブレット、調理用具、バケツ、ロープ、懐中電灯が入っていました。しかし、各災害の状況はさまざまであるため、現在はニーズに応じて異なる品が含まれています。例えば、家が全壊した場合は家族用サイズのテントが必要とされる一方で、家屋の一部が破壊された場合には修理のために厚手の防水シートやロープ、釘などが必要とされます。



シェルターボックスは 2012 年以來、災害救援におけるロータリーの正式なパートナーとなっています。近隣のクラブ会員が被災地との連絡や支援の調整にあたるなど、ロータリーとのつながりを通じて、支援が行き届きにくい地域での救援活動が可能となります。シェルターボックスが最も長期的に支援しているシリアでは、2012 年から救援活動が続いています。詳しくは、シェルターボックスのウェブサイト（英語）と関連ブログ記事（日本語）をご覧ください。

フランス：Opticiens Lunetiers sans frontières（国境のない眼鏡技師団）

主な活動分野：疾病との闘い

1991 年、ロータリー会員である眼鏡技師、クリスチアン・スピラさんとジャン-ルイ・ランデュさんは、ランデュさんの娘が人道的活動を行っているカメルーンを訪れました。滞在中に二人は、現地での眼鏡技師の不足により、視覚障がいと診断された患者たちがフォローアップの治療を受けていないことに気づきました。フランスに帰国した二人は、所属する Perpignan ロータリークラブの助けを借りて、Opticiens Lunetiers Sans Frontières（国境のない眼鏡技師団）という NGO を立ち上げました。二人は、ボランティアの眼鏡技師たちとともにカメルーンに同団体の最初の眼科クリニックを設立。そ

の後も、マダガスカル、トーゴ、セネガル、モーリタニア、モロッコ南部、ハイチへと拡大したほか、未来の眼鏡技師を養成するために 12 カ所の運営センターを開設しました。

同団体により、230 万人以上が恩恵を受け、多くの人が視力問題に適応できただけでなく、毎年、世界各地に何千という眼鏡が届けられています。同団体のもう一つの使命は検査プログラムの開発であり、子どもたちが教育を受けつづけられるように学

ご存知でしたか？

視覚障がいのある人の数は世界で 3 億 1,400 万人。そのうち 80% 近くは、適切な医療によって視力を回復しています。

（情報源：米国疾病対策センター [CDC]）

校での視力低下防止を行うことが含まれています。

米国：Citizen's Climate Lobby (CCL)

主な活動分野：環境

2006 年、Coronado ロータリークラブ（米国）のベテラン会員で、人道的活動に時間と資金を捧げてきたマーシャル・サンダースさんは、米国のアル・ゴア元副大統領によるドキュメンタリー映画『不都合な真実』（原題『An Inconvenient Truth』）を鑑賞し、気候変動による現存の脅威に取り組まない限り、自身の努力もすべてが無駄になることに気づきました。そこで、ロータリークラブ、学校、教会、高齢者の入居施設など、招かれればどこでも気候変動について話をしました。何千人もの市民が声をひとつにして国会議員からの支持を得るために、組織だった取り組みが必要であることは明らかでした。このため、サンダースさんは Citizens' Climate Lobby (CCL) と呼ばれる団体を立ち上げました。

その後、CCL のメンバーたちは「carbon fee and dividend」（炭素課金とその還付）という概念を唱道する活動を開始。これは、排出するグリーンハウスガスについて事業者に課金し（1 トンあたり 15 ドル）、毎年課金額を増額することを提案するものです。徴収された資金は、高額な燃料費の代償として消費者に直接払われます。目標は、市場原理を通じたクリーンエネルギー技術の採用を奨励することです。



世界を変える行動人